

広角側で広く 写し撮ってみよう！

レンズキットに採用されているレンズの多くは35ミリフィルム換算で28ミリ〜70ミリ相当の画角から始まるものが多い。この28ミリ相当の画角は74度。遠近感も強調され、充分なワイド感が得られる画角で、風景写真やスナップ写真に向いている。狭い室内での撮影にも有効だ。近い部分は大きく写り、遠い距離にあるものは小さく写る。この当たり前のことが、広角レンズでは特に強調される。さらに、レンズの歪みも加わるので、独特のパースペクティブを生み出す。また、被写界深度（ピントが合う範囲）



1 広角にはデジタル専用レンズが不可欠

キャノンのデジタル専用レンズ「EF-Sマウント」で焦点距離18ミリ（28ミリ相当）で撮影。街全体が広く収まっているフィルムだと18ミリは超広角レンズとなり、かなり高価でサイズも大きいレンズが多い。一方デジタル専用レンズはサイズがコンパクトで、最新設計のため画質もいい。特に、広角は専用レンズが使いやすいだろう。

3 全体をくっきり写す広角レンズ



ニコンDXフォーマットの20ミリ（30ミリ相当）で撮影。画面全体にピントが合うことを「パンフォーカス」というが、この写真はまさにそれ。こうしたパンフォーカスの撮影は、広角のほうが行いやすい。

ニコン「DX」フォーマットの17ミリ（25ミリ相当）で撮影。欲張って子どもたちも背景の島も海も砂浜も太陽の反射も入れたかった。広角レンズならなんとかなるものだ。なお、この写真はうまく構成できたが、あまり広く写すと欲張りすぎて收拾がつかなくなることもよくあるので要注意だ。



2 レンズキットの広角側で撮ろう！

が深く、全体をシャープに写し出せるのも広角側での撮影の特徴だ①。一方、広角側で撮ると広い範囲が写るので余計なものが写り込んでしまう場合がある。ファインダーを覗きながら、画面の周辺に余計な物が写っていないか、注意を払うようにしよう②。ワイド端から少し標準レンズの画角に近づいた準広角になると、極端な歪みも無く落ち着いた自然な描写になる③。

望遠側で引き寄せて 撮ってみよう

レンズキットに付属しているズームレンズの望遠側は、焦点距離50ミリ前後、35ミリフィルムに換算すると75〜80ミリ前後の「中望遠」と呼ばれる画角になる。この画角は、ポートレート撮影などに向いていて、自然な視野感が得られる使いやすい焦点域だ①。絞りを開ければ背景をぼかしたイメージも作りやすい②。

しかし、もっと遠くのもの大きく写したり、遠近感の詰まった独特の描写など本格的望遠レンズのイメージからするとちょっと物足りない③。そこで、さらに望遠系のズームを一本追加して「ダブルズームキット」として販売している場合もある。また、レンズキット+望遠レンズといった選択をする人も多いようだ。

望遠レンズの特徴は、被写界深度が浅いことにある。そのため、ピントが合った距離以外の前後はボケることになる。広角とは逆だ。つまり、余計なものを排除しやすいので、撮影者の意図を伝えやすいという性質を持っている④。



1 ポートレートに最適な望遠側

焦点距離50ミリ（75ミリ相当）で撮影。このぐらいの焦点距離はポートレート撮影に最適。相手との距離感を意識しながら、少し離れてカメラを構えろ。もし、広角レンズで顔のアップを撮ろうとすると、数センチの距離まで近づくとになり、被写体がカメラを意識して、しり込みしてしまう。

4 目一杯ぼかしたければさらに望遠



120ミリ（180ミリ相当）で撮影。このぐらい焦点距離が長くなると、グッと画角が狭くなる。グラスとお花の部分のみにピントがきて、ほかの部分は何かがあるかわからないほど、ぼけている。

3 自然な雰囲気撮れる

50ミリ（75ミリ相当）で公園でのスナップ。特に望遠レンズっぽい絵柄ではないけれど、自然な距離感描写で撮れるのが中望遠レンズの特徴だ。



2 被写体に近づくと背景がぼける



焦点距離50ミリ（75ミリ相当）で撮影。どこか一部分を切り取って雰囲気を伝えていく撮り方だ。背景が程よくボけているのも、雰囲気を伝えるのに役立っている。